

沖縄大学 二〇二六年度 一般選抜(中期)

国語 解答例

問一 ①訴訟 ②あらが(って) ③脅(かす) ④聴衆 ⑤切迫 ⑥せんどう ⑦普遍 ⑧配慮 ⑨びみよう(な) ⑩あいまい(さ) ⑪語彙 ⑫しょうえん ⑬許容 ⑭じょうせい

問二 Aそれでも、Bつまり、Cところが、Dたとえば、Eもちろん、Fこのように

問三 (ア)× (イ)○ (ウ)○ (エ)×

問四

疎外された人は「自己防衛」に関して危険が生じ、集団に所属・帰属することで資源や知識、子育てを分担して問題解決をしようとする。さらに、人は集団の一員になることで普遍的な欲求を満たし、自尊心を高めていくから。(二〇二字)

・集団への所属からはじき出された人は「自己防衛への欲求」が危機に晒されることを踏まえ、「所属・帰属」という「普遍的な欲求」によって「自尊心」などを満たすことに繋げて文意をおさえているかどうか。

問五

「甘え」とは人間関係において相手の好意を必要とし、個と集団の微妙な関係を表している。だが、それを受け入れる側からすれば、「依存する欲求や行動」を許すことで争いを避け、相手の感情を抑え込む役割を果たすから。(二〇一字)

・個と集団の微妙な関係を表す「甘え」という概念を踏まえ、「甘え」を受け入れることが「依存を許す」とこと連鎖して、表面的な対立を避けるという説明があること。

問六

かつての日本社会では、農村が伝統的な共同体として機能し、日常生活は単調であった。

閉じた「依存関係」の息苦しさを和らげ、争いを防ぐために〈あそび〉の空間が存在し、無礼講が「争わない社会」の解決策となっていた。しかし、現代社会では個人の自由や自立が強調され、〈甘え〉に対して不寛容である。孤独死の増加は、自己責任や自助努力が求められ、家族や地域共同体に頼りづらくなったことが影響している。依存を許す社会が求められていよう。(二〇九字)

・表記、字数(適切であるか)

・内容(文章で表現されている内容についてよく理解し、「甘え」と「依存を許す」関係が問題解決になることを発展させて、集団に「所属・帰属」する動機について思考しているかどうか)――「日本人」が「甘えに」に不寛容になってきていることに触れ、「争わない社会」が「依存関係」と相関関係があることに触れつつ、「近年増加する孤独死の問題」に対して「個人」が家族や地域共同体に頼れなくなっている理由について記述すること。